

# 土岐川・庄内川流域治水に関する質問と回答



みんなが暮らす土岐川・庄内川

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

土岐川・庄内川流域治水協議会は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

	質問	回答	回答日
1	<p>庄内川流域治水に関するシンポジウム、一般の方にとって治水事業をどうやって進めているのか、理解が十分ではない面が多いと考えております。</p> <p>そして地域の守り手としての「建設業」を一般の方に広くアピールする必要性も。その意味でもシンポジウムを一つの機会ととらえ、紙面を活用した定期的な広報も検討いただければ幸いです。</p>	<p>○今後とも土岐川・庄内川流域治水の取り組みを広く理解してもらうため、広報についても積極的に取り組んでいきたいと考えております。</p>	令和4年2月7日
2	<p>私は家の近くの川の研究をしています。</p> <p>住宅街の中を流れる小川ですが、うなぎやヨシノボリなど愛知県にもともと住んでいる魚がたくさん取れます(観察後、在来種は逃がします)。</p> <p>そこで質問です、治水をすることで、うなぎやアユなど川と海を行き来している魚達に、悪い影響は無いのでしょうか？</p>	<p>○治水事業を行えば、河川環境へ影響を与える可能性があります。</p> <p>○従って、河川環境への影響に配慮することは、治水事業を進める上で非常に重要な観点であると認識しています。</p> <p>○庄内川河川事務所では、例えば河口部の藤前干潟において河川整備を行う場合は、飛来する渡り鳥に配慮した施工時期の調整をしています。また、河道掘削を行う場合には底生動物への影響を確認するための継続的なモニタリング調査を実施しております。</p> <p>○モニタリング調査によれば、底生動物は掘削直後に一時的に個体数は減少するものの、翌年には回復する傾向が確認されています。</p> <p>○また、土岐川では礫河原再生により、浅瀬に生息するアカザの個体数の増加が確認され、矢田川ではワンド整備により、水生生物の個体数の増加が確認されています。</p> <p>○このような取組も引き続き実施していきたいと考えています。</p>	令和4年2月7日

# 土岐川・庄内川流域治水に関する質問と回答



	質問	回答	回答日
4	<p>土岐川・庄内川には、使用されなくなった「多治見水道取水堰」や「山西用水堰」のように建設当時と比較して99%以上の水田が宅地化によって消失し、用水の利用量が激減している堰が存在します。これらの堰は、洪水時の流下阻害になるため、撤去や取水方法の見直し等の対策が必要かと思いますが、現在の財政状況では堰管理者だけで使われなくなった堰の撤去費用を捻出することが難しいと聞いております。</p> <p>流域治水の観点から、堰の撤去が洪水対策に貢献するのであれば、これまでの概念に捉われず、国等の洪水対策予算を堰の撤去費用に充てるなどの予算措置は現状の制度でも可能でしょうか？</p> <p>今後、洪水対策に繋がるのであれば、柔軟に予算が充てられるような制度を設けていただきたい。</p>	<p>○堰等の改築・撤去については、その管理者が実施することが原則となります。</p> <p>○改築・撤去費用に対する支援制度があれば、土岐川・庄内川流域治水協議会の場を通じて紹介していきたいと考えております。</p>	令和4年2月7日
5	<p>枇杷島が出来ていないのに上流を整備すると上流であふれなくなる分枇杷島が危険になるのではないですか。それとも枇杷島が完了するまで上流は整備しないんですか。</p>	<p>○枇杷島の狭窄部対策については、国・県・市・民間企業が連携し、橋梁の架け替え等を鋭意実施しているところです。</p> <p>○枇杷島の狭窄部の上流側の整備については、下流の安全度に負荷をかけない範囲で、橋梁架け替えの各段階や河道掘削等の整備の進捗に合わせて、順次進めていく必要があると考えております。</p>	令和4年2月7日
6	<p>近鉄や名鉄などその他の橋梁は高さ、幅的に大丈夫なんでしょうか。大丈夫じゃないとすると改築はいつ頃を予定していますか。</p>	<p>○土岐川・庄内川は、道路橋や鉄道橋など多くの橋梁が設置されており、桁下高不足や径間長不足など現在の河川管理施設等構造令等の技術的な基準を満たしていない橋梁があります。</p> <p>○橋梁の架け替えについては、河川改修との時期に合わせて、適切な対策を検討し、施設管理者と調整しながら進めていく必要があると考えております。</p>	令和4年2月7日

# 土岐川・庄内川流域治水に関する質問と回答



	質問	回答	回答日
7	<p>市街化が進んで流出量が増えた分を川で何とかするのは対処療法であって、本来は上流で浸透、貯留、山林保水をしっかりやって市街化される前の流出量に減らすという根本治療が必要なのではないですか。</p> <p>それができれば、下流の高台まちづくりなどの対策の必要性は下がるのではないですか。</p>	<p>○土岐川・庄内川の流域では、ため池や雨水貯留浸透施設等による流出抑制対策や森林保全に取り組んでおり、庄内川水系流域治水プロジェクトの対策のひとつに位置づけています。</p> <p>○一方で、近年毎年のように日本各地で、これまで経験したことのないような豪雨が発生し、深刻な災害が発生しているなど、気候変動による水災害リスクが増大しています。</p> <p>○こうしたリスクに対応するためには、浸水被害を軽減するため、高台まちづくり等の施策も合わせて実施していく必要があると考えています。</p>	令和4年2月7日
8	<p>今、東海豪雨が再来すると、水位や橋梁でのせき上げ、新川への影響などの安全面は当時と比較してどう変わっていますか。</p>	<p>○東海豪雨以降、庄内川では、出水時に越水していた国道1号一色大橋の架け替え・堤防整備や河道掘削及び堤防が決壊した新川への負担を軽減するための洗堰かさ上げの対策を実施し、治水安全度は向上してきたところです。</p>	
9	<p>生まれてからずっとここに住んでおり、庄内川を見てきました。</p> <p>現在は不動産業をしており、お客様から庄内川は大丈夫ですか？とよく聞かれますが、大丈夫です！と明確に言えないわたしがいます。</p> <p>現在、庄内川の治水事業はどうなっているのか？また、どこが問題があり、今後どのように取り組んで行く予定のかを、庄内川周囲の不動産を購入する人に説明できるようになりたいです。</p>	<p>○ただし、庄内川においては、洪水の流下に支障をきたしている枇杷島地区の狭窄部があるなど、安全度は十分ではなく、再び東海豪雨と同じような大雨となった場合には、庄内川本川においても堤防決壊のリスクがあります。</p> <p>○そこで、河道掘削工事のほか、狭窄部となっている枇杷島地区の堤防整備及び、堤防整備に伴って必要な橋梁架け替え工事を進めています。</p> <p>○なお、堤防決壊した場合のリスクについては、河川管理者が提供している洪水浸水想定区域図や地点別浸水シミュレーション検索システム(浸水ナビ)をご確認ください。</p>	令和4年2月7日